

論文内容の要旨

論文提出者	野口哲司
論文題目	Insomnia and depression impair oral-health related quality of life in the old-old
<p>(論文内容の要旨)</p> <p>本研究では、75歳以上の後期高齢者の口腔関連QOLのリスクファクターを口腔内環境・ライフスタイル・精神的なストレス等との関連から探索することを目的として研究を行った。</p> <p>日本国内の一般歯科医院26施設に通院する患者のうち75歳以上の患者を対象として、口腔関連QOL(GOHAI)・全身関連QOL(SF-8)・精神的な健康状態(GHQ)とライフスタイルに関して自記式質問紙用い、口腔状態は歯科医院にて診査を行った。調査期間は2006年の8月から9月の1か月間とした。</p> <p>解析は、GOHAIスコアを日本人の国民標準値の第一四分位点である45点をカットオフ値とし、45点以下をGOHAI低得点群、46点以上をGOHAI高得点群とて2群に分けて平均点の比較を行った。さらに、ロジスティック回帰分析を行いGOHAI低得点群に関係する因子の探索を行った。対象者は187名、平均年齢は78歳であった。対象者のGOHAI平均点は51点であった。2群間で有意差のあった項目は、平均睡眠時間・睡眠薬の服用・SF-8・GHQスコア・現在歯数・メンテナンス年数などであった。ロジスティック回帰分析の結果、睡眠薬の服用とうつが後期高齢者のGOHAI得点低下に関連していることが分かった。</p> <p>うつ病に見られる不眠・意欲の喪失・食欲減退等の兆候はどれもQOLを低下させると考えられる。今回、不眠症がGOHAIのリスクファクターであることが初めて明らかにされた。高齢者は身体的や精神的な衰えから睡眠の質が悪くなると報告されている。また、睡眠薬の主成分であるベンゾジアゼピン系薬剤が口腔乾燥症の副作用が報告されていることから、GOHAIスコアを低下させる要素の一つであると考えられる。</p> <p>本研究により後期高齢者の口腔関連 QOL は不眠症とうつ病と強い関連があることが明らかになった。歯科医療関係者は患者の総合的な背景について考慮し、診察を行うことが後期高齢者の口腔関連 QOL を向上させることにつながると思われる。</p>	